

2012年10月31日

コンビ株式会社

社長:松浦 弘昌

〒111-0041 東京都台東区元浅草 2-6-7

TEL : 03-5828-7607 FAX : 03-5828-7662

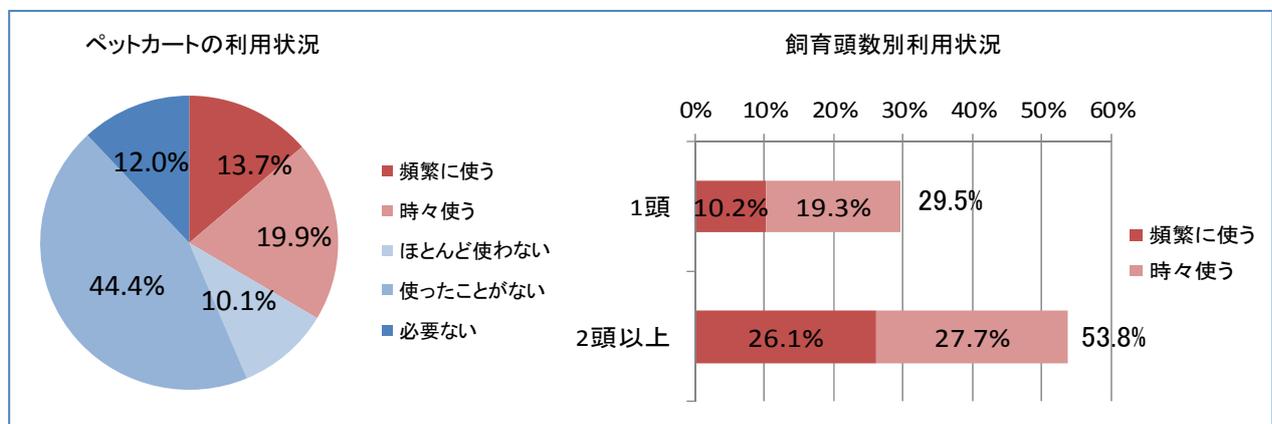
ペットカートの使用実態と、獣医師からのアドバイス 「ペットカートの活用メリットについて」

愛犬とのお出かけを積極的に楽しむ愛犬家の間で、注目のアイテムとなっているペットカート。コンビ株式会社は、ペットカートをどのように活用しているのか、愛犬家の方にアンケートを実施しました。その結果を踏まえ、今回、愛犬とのお出かけをより安全で快適なものにするためにはどうすべきか、獣医師のアドバイスをご紹介します。

【飼い主さんアンケートの結果からみるペットカートの使用実態】

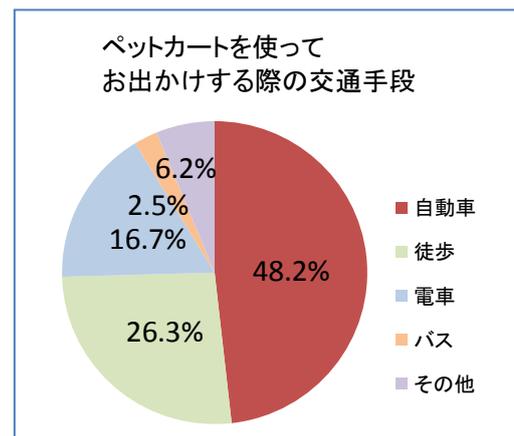
■犬を飼っている方の3分の1が利用、多頭飼育では半数以上の方が利用

「頻繁に使う」と「時々使う」を合わせて 33.6%と、約3分の1の方がペットカートを利用しています。さらに飼育頭数別にみると、2頭以上の「多頭飼育家庭」での利用率は半数を上回り、ペットカートが広く浸透しつつあることがわかります。



■車を使った「遠出のお出かけ」に重宝

ペットカートを使ってお出でかけする際の交通手段は、「徒歩」を大きく引き離して、「自動車」が5割弱でトップ。カートは、ご近所のお散歩よりも、車を使った比較的「遠出のお出かけ」で、活用されています。

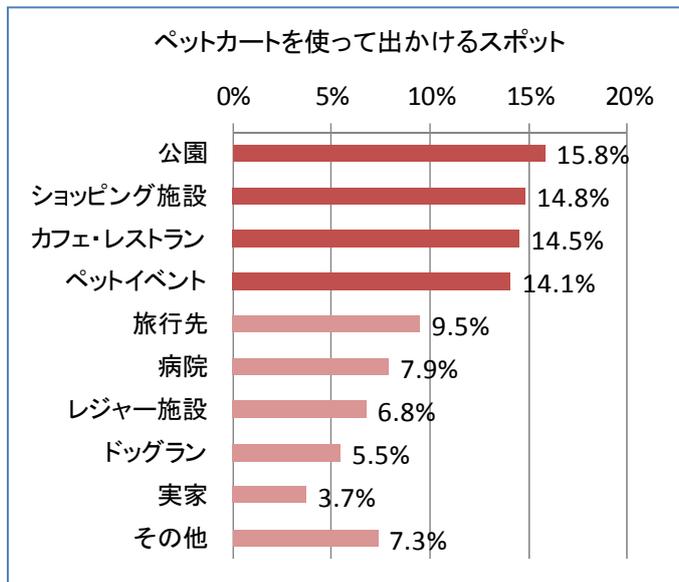


■従来、犬同伴がためられた場所にも、お出かけ傾向

ペットカートを使ったお出かけ先の上位は、「公園」「ショッピング施設」「カフェ・レストラン」「ペットイベント」の順番となりました。

ペットカートでのお出かけなら、周囲に迷惑をかけずにすむため、ショッピングや飲食店など、従来なら犬同伴をためらっていた場所にも、お出かけする傾向にあります。

ペットカートの使用によって、愛犬とのライフスタイルが従来とは大きく変化しており、愛犬との暮らしの場面が、外に向かって大きく広がっている様子がわかります。



※アンケート実施:2012年8/31~9/30 サンプル数694

■「頻繁に使う」と答えたペットカート使用者に、カートの“使いこなしぶり”をお聞きました！

[多頭飼育なので必需品]

- 2匹と暮らしており、ドッグカフェにお出かけのときに、移動が楽なカートを頻繁に使用します。
- デパートやショッピングモールで買い物をする時、混雑した場所で愛犬の安全を確保します。ドッグランで、1人で一度に2匹の行動を見られないとき、1匹をステイさせておくのにも重宝します。

[ショッピングで大活躍]

- キャリーバッグだと狭くて可哀想だし、ずっと持つと重いですが、カートを使用すれば楽々です。
- ダックスフンドなので、床が滑りやすい所は、できる限りカートで移動しています。カートなら、排泄をして周りの方に迷惑をかける心配もありません。

[ペットイベント会場で重宝]

- 駐車場から目的地への移動やイベント会場で使用しています。移動が楽で、混雑した会場で犬が踏まれて怪我をするのも防げます。
- 他の人に迷惑をかけないように、できるだけカートに入れていきます。人ごみでも安心して歩けます。

[カフェではリラクスペースとしても]

- 愛犬同伴で食事をするときは、カートに座らせています。犬を乗せての移動以外に、椅子代わりとしても重宝するので、お出かけのときには、必ず車に積んでいきます。
- カフェでランチのとき、ドッグカフェではない場合、カートで待機させておけるので便利です。

[高齢や病気の子のために]

- 持病でお出かけ中に動けなくなることがあり、ずっと抱っこをするのも大変なので、カートを利用することにしました。
- 13歳の老犬なので、カートに乗りたがって歩きません。

【獣医師からの使いこなしアドバイス】

愛犬とのライフスタイルが、外に向けて広がるペットカート。より快適に使いこなすために、弊社のペットカート「コムペットミリミリ」の監修獣医師でもある、小林豊和先生にアドバイスをいただきました。

■ペットカートを、愛犬の「体力差」などを調整する道具として活用

愛犬の毎日のお散歩にも、ペットカートを上手に活用しましょう。例えば、行きはカートを使用し、帰りは歩かせるようにすれば、いつもより遠出のお散歩が楽しめ、飼い主さんの運動量も増えます。

愛犬と飼い主さんの間、あるいは多頭飼育なら犬同士の間にも、体力や性格の違いがあります。一緒に行動するには、お互いを合わせる必要がありますが、カートをそういった違いを調整する道具として活用すれば、より快適なお散歩が楽しめるのではないのでしょうか。

■犬種の弱点をカバーしてあげよう

一般にチワワは散歩嫌いで知られ、ダックスフンドは神経質で、知らない場所では歩きたがらない傾向があります。こうした犬種には、カートは特に重宝します。またフレンチブルドッグのような短頭種の暑さ対策にも役立ちます。犬種の弱点をカートでカバーしてあげるのは、とても有効な活用法です。

■日頃から、愛犬がリラックスできる場所にしよう

犬がリラックスできるのはキャリーバッグよりカートです。ただし、日頃からカートに慣れさせて、自分のハウスのように居心地のよいセーフティエリアにしておくことが必須となります。例えば、旅行に行ってペット可のホテルに宿泊しても、犬は身の置き所がありません。慣れない場所は、犬にとって好奇心よりも不安が大きく、警戒心が強まります。使い慣れたカートのキャリー部をそのままベッドにしてあげれば、犬も安心して落ち着けます。

■電車内では、キャリー一部を覆って外界を遮断しよう

電車などの公共交通機関を利用するときは、カートの幌はメッシュ部分もすべて覆って、外界を遮断してしまいましょう。上から見下ろす周囲の視線は、犬に恐怖心を与え、ムダ吠えの原因になります。周囲を見えなくすることで、犬も落ち着けるし、飼い主さんも「吠えたらどうしよう」と心配しなくて済みます。

※ペットカートの公共交通機関でのご使用については、バスは不可となっております。電車は各鉄道会社にご確認の上、取扱説明書の注意を守って正しくご使用ください。

■熱中症対策にも有効です

犬は人より体温調節が苦手なため、熱中症には十分な注意が必要です。暑い時期は、直射日光や地面からの輻射熱を防ぐために、ペットカートでのお出かけが望まれます。ただし、幌部分をしっかり下ろして直射日光対策をする余り、熱気がこもりすぎると危ないので、通気性の確保に気をつけてください。また、熱中症は夏場に限りません。比較的密閉されたキャリーで、自動車の足元暖房に当たった状態だった犬が熱中症になった例もあります。冬でも油断は禁物です。

【監修獣医師】

グレース動物病院 院長 小林豊和先生

グレース動物病院(東京都・杉並区)院長。最新の獣医療の提供とともに、予防医学を重視し肥満犬や高齢犬の生活指導や食事指導にも注力。著書・テレビ出演など多数。



報道各位からのリリースに関するお問い合わせ先：経営企画部 広報担当 大場

TEL：03-5828-7607 / FAX：03-5828-7662

製品に関するお問い合わせ：コンシューマープラザ コムペット係

TEL：048-797-1004